

平成28年度 常磐野教育 重点項目と取組

【学校経営方針】

学校教育目標の「自ら学び 心豊かに たくましく生きる 常磐野の子の育成」に向け、全教職員が取り組むべき課題を共有する。以下の5点を重点項目とし、全教職員が「チーム常磐野」を常に意識して、一人一人の子どもを徹底的に大切にした「明日も行きたくなる学校づくり」を行う。

◎重点項目

- 1 児童の学力向上
- 2 校内研究の推進
- 3 攻めの生徒指導の実践
- 4 人権教育の充実
- 5 豊かな心を育てる協働活動の推進



◎取組

1 児童の学力向上

- ①日常の授業の充実、個に届く授業実践
 - ・「わかる喜び」と「学ぶ楽しさ」を実感できるように、児童理解に基づく思考の流れを考えた授業展開や個に応じた支援
 - ・主体性、学習意欲の向上をキーワードに、めあて（学習課題）と振り返り（まとめ）の徹底
 - ・効果のある指導形態の工夫
 - 全学年チーム・ティーチング、交換授業等の実施
- ②学習集団づくり～学びの約束やルールの徹底
- ③帶時間（スキルタイム）、がんばり勉強の充実
- ④読書指導の推進（朝読書の徹底、図書室の活用）
- ⑤家庭学習の習慣化～やりきらせる指導、自学自習の奨励
 - 「予定表の活用」、保護者との連携



2 校内研究の推進～理科・生活科・外国語活動・生活単元学習を通して

【研究主題】

自らの学びをひろげ深める子どもの育成
～主体的に学ぶ姿の追求と言語活動の充実～

- ①授業開発～自然に親しむ、問題解決的な学習と体験活動の重視、学習問題とまとめ（振り返り）⇒実感を伴った理解を図る、気づきを拡げる

②授業以外の取組

- ・環境整備（掲示板の活用、自然だよりの発行、理科コーナー）
- ・わくわくサイエンス（児童朝会での実験教室）
- ・夏休み自由研究の取組（3年次）の推進
- ・ネイチャーランドの整備と活用
- ・土曜学習「サイエンススクール」
- ・嵯峨野高校との理科連携



③言語活動の充実・推進

- ・「話す力」「書く力」の向上、ノート指導の充実、共に学び合う力の育成

④英語活動（外国語活動）の推進

- ・英語に親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- ・3、4年から英語活動の授業の実施（年間12時間）
- ・5、6年で「書く」活動を取り入れる
- ・英語の日の取組（毎週金曜日）の推進
- ・英語に親しむ時間（水曜日の朝学習）の設定



3 攻めの生徒指導の実践

①児童理解の徹底と見逃しのない観察

- ・児童や保護者との信頼関係、日々の観察や子どもとのふれあい
- ・日記やクラスマネジメントシート・いじめ調査の活用

②心の通った指導

- ・子どもへの愛情～褒める、認める、毅然と叱る
- ・子どもの思いを「聴く」
- ・自己肯定感と自己有用感を育てる

～集団活動（学校行事、全員遊び、係活動等）や授業の中で、

児童が活躍できるような場を意図的に仕組む、学級集団の意識を高める

③手遅れのない対応

- ・組織的な対応、報告・連絡・相談の徹底

④授業を通した生徒指導の実践

個が生き生きと活動する授業の追求～躊躇を想定した支援、学習意欲を高める学習展開や板書の工夫、学習集団作り、自己評価（振り返り）による成長の実感

⑤相手を大切にする言葉づかい、あいさつ、きまりを守ろうとする意識の高揚

男女関係なく「さん」づけで呼ぶことの徹底

⑥学校いじめ防止基本方針の改訂

⑦非行防止教室や薬物乱用防止教室、携帯スマホ教室の実施

4 人権教育の充実

①児童の人権感覚、人権意識の向上。いじめをしない、許さない、やさしい子の育成

②教職員研修、授業公開と保護者啓発の連動

- ・教職員全員で人権影絵劇に取り組む

③LD等支援の必要な子どもの実態把握と「個別の指導計画」

「個に応じた指導計画」に基づく総合育成支援教育の推進

5 社会性や豊かな心を育てる協働活動

①道徳教育の充実

- ・ねらいを明確にする。授業の振り返り⇒評価に繋げる

②たてわり活動の実施

- ・たてわり班を作成し、たてわり遊びや読み聞かせの実施。

③よさや可能性を高める部活動の取組

④地域との協力体制の強化と充実

- ・学校運営協議会の推進



- ・地域の方から学ぶ～ゲストティーチャー、地域行事への参加
- ⑤学校評価を生かした運営の推進
 - ・P D C Aサイクルの実践
 - ・学校評価による取組の検証と実践
 - ・ホームページの更新増加による積極的な情報発信

